

技術者の卵躍進

宮古市赤前の宮古工高(兼平栄補校長、生徒295人)電気電子科の2年生7人は、国家検定である2009年度後期技能検定3級電気機器組み立て(シーケンス制御作業)を受験し、全員合格した。建築設備科2年の5人も3級配管(建築配管作業)の資格を全員が取得。努力を重ねた成果に喜びを広げている。

宮古工高の2年生

技能検定制度は、もある。学科では機械のしくりなどを担う技 回路を組み立て、プログラムの技能を国が証明 グラムを入力。機械がする制度。3級は初級 正常に作動するように技能者が通常有すべき する。技能程度と定められて 生徒は市産業支援センターや県の支援を受け、昨年9月から検定(シーケンス制御作業) 取得への取り組みを開始、冬休み明けも2、

12人が国家資格取得

機器組み立て配管 努力で全員合格



3時間の勉強を積み重ねた。

7人は、同校初の受験生で見事全員合格。

電気機器組み立てと配管の技能検定全員取得を果たし、喜ぶ宮古工高の生徒

一関貴也君は「プログラムを覚えるのが大変だった。就職にも有利になるので資格が取れてよかった」と喜ぶ。

配管(建築配管作業)の実技試験は給水管図に従い、鋼管と塩化ビニール管の組み立てをすべて手作業で行う。同校OBが講習を行い技能を伝授した。

今回の検定では、女子生徒の坂下千織さんが合格。同校によると、県内の高校では初めて女子生徒が取得したという。

坂下さんは「練習を始めたころは組み立てに時間がかかったが本番はつまづいた。将来は資格が応用できる仕事に就きたい」と夢を描く。